

(八七) 幽門ノ直後ニ當リ十二指腸ノ内面ニ輸膽管口隆起セリ

(八八) 腸ノ側壁モ亦胃ニ於ケル如ク内外中ノ三層ヨリ成ル唯之ニ比スレハ稍薄弱ナルノ差アリ

(八九) 小腸ノ粘膜ハ不規則ナル障膜狀ノ横襞ヲ現ス之ヲ自閉瓣 (valvulae conniventes) ト稱ス細微ノ圓錐狀突起タル

絨毛 (villi) ハ此上ニ排次ス絨毛ハ水底ニ檢スルニ非サレハ之ヲ認ムルヲ得ス

(九〇) 橢圓囊ト結腸トノ間ニ存スル圓孔ノ縁邊ハ隆起シテ廻結腸瓣 (Ileo-colic valve) ヲ成ス

(九一) 盲腸ノ螺旋瓣 (Spiral valve) ハ其内腔ニ向ヒ外面ノ記紋ト符合セル狭小ノ螺旋狀帶ナリ

(九二) 結腸二部ノ反折部ニ結腸間瓣 (Intra-colic valve) ト名ツシル著大ノ一襞積アリ

(九三) 蟲様垂及ヒ橢圓囊ノ側襞ハ厚クシテ腺狀ヲ呈セリ之ニ反シテ盲腸ノ側襞ハ極メテ薄クシテ其内面ト螺旋瓣ノ表面ハ共ニ細微ナル乳頭起ヲ以テ排次セラル

(九四) 大腸ニハ絨毛ヲ缺如ス結腸ノ粘膜ニハ乳頭起ヲ存スレトモ直腸ノ粘膜面ハ平滑ナリ

(圖解) 下行大靜脈 36 背大動脈 37 腹腔動脈 38 腸間前動脈 39 腸間後動脈 40 乳動脈 41 顏面動脈 42 孤靜脈 43 膈動脈 44 腸骨總動脈 45 腸骨總靜脈 46 外頸動脈 47 腸骨外動脈 48 腸骨外靜脈 49 外頸靜脈 50 股動脈 51 股靜脈 52 肝靜脈 53 内頸動脈 54 肋間脈管 55 腸骨内動脈 56 腸骨内靜脈 57 内頸靜脈 58 腸腰動靜脈 59 無名動脈 60 左心耳 61 左頸總動脈 62 上行左大靜脈 63 左心室 64 薦骨中動脈 65 肺動脈 66 上腹動靜脈 67 顏面後靜脈 68 肺靜脈 69 腎動靜脈 70 右耳 71 右頸總動脈 72 上行右大靜脈 73 右室 74 鎖骨下動脈 75 鎖骨下靜脈 76 精動靜脈 77 上膀胱動靜脈 78 子宮動靜脈 79 脊椎動脈 (サチ) 肝ノ左中葉 (サソ) 左側葉 (サニ) 左輸膽管 (スヨ) スヒーゲル氏葉 (モミ) 門脈 (イヒ) 胃脾靜脈 (カト) 肝動脈 (イト) 胃動脈 (フモ) 噴門部 (ヒ) 脾 (シク) 食道 (シウ) 十二指腸 (チコ) 腸間後靜脈 (チモ) 直腸網膜 (チ) 直腸 (スカ) 降管 (チカ) 十二指腸部ノ腸間膜ニ分布セル脈管 (ス) 降 (ユモ) 幽門部 (チシ) 腸間靜脈ノ主管 (シト) 十二指腸動脈 (ユタ) 總輸膽管 (ヒト) 脾動脈 (ヒヨ) 肝ノ尾葉 (タト) 膽管動脈 (タク) 膽管 (タノ) 膽囊

● 兎ノ解剖案内 (二一頁) (續キ)

飯 島 魁

本雜誌前號ニ於テ測ラズモ兎ノ解剖ガ鉢合セテ致シタルガ相手ノ岩川學士ハ軟部解剖ヨリ始メ拙者ハ骨格ヨリ始メタルガ故眼ヨリ少々火ノ出デタル外雙方ニ怪我

兎ノ解剖案内

第貳卷 六一

ノ無カリシハ幸ナリシ、拙者ハ骨格ヲ濟セタル上ハ此案内ヲ止メニ致シ餘ハ岩川學士ノ卓文ニ讓ルコトニ決意セリ、左様御承知アルベシ

(四十二)後頭基底骨(Basioccipital)ハ稍々扁平ノ骨ニシテ大孔ノ直下ニ在リテ頭蓋基底ノ最後部ヲ成セリ、各側後頭髁ノ下部凡ソ三分一ハ此骨ニ屬スルモノナリ

(四十三)外後頭骨(Exoccipitals)ハ大孔ノ兩側ニ在リテ下ハ後頭基底骨ト連續シ而シテ各後頭髁ノ上部凡ソ三分二ヲ成セリ、各側ノ外後頭骨ハ下方ニ向ヒ突出ス、之ヲ後頭側突起(Paroccipital process)ト名ヅク、又各側ノ外後頭骨ハ其後頭基底骨ト接スル邊ニ二孔ヲ開通ス、之ヲ髁孔(Condylar Foramina)ト名ヅク舌下神經(Hypoglossus)ヲ通出セシムルモノナリ

(四十四)上後頭骨(Supraoccipital)ハ大孔ノ上ニ位シ下ハ外後頭骨ニ連接ス、其形不規則ニシテ表面ハ小凹ニ富ミ且ツ正中線ニ隆起ヲ具フ

成体ニ在テハ以上記スル所ノ三種ノ後頭骨ハ一骨ニ癒合

シ之ヲ稱シテ單ニ後頭骨(Occipital Bone)ト云フ

(四十五)顛頂間骨(Interparietal)ハ橫長ノ畧ボ橢圓形ナル一骨ニシテ上後頭骨前緣ノ正中部下兩顛頂骨トノ中間ニ狹マレリ

(四十六)顛頂骨(Parietals)ハ頭蓋天井ノ一大部分ヲ成スモノニシテ左右二骨ヨリ成リ正中ノ所謂矢狀縫合(Sagittal Suture)ヨリ相接着ス、其顛頂間骨及ビ上後頭骨ト接スル線ハ之ヲ三角狀縫合(Lambdoidal Suture)ト名ヅク、各顛頂骨ノ側緣ハ下方ニ向ヒ長突起ヲ出メスト雖モ分離セザル頭骨ニ在テハ鱗狀骨(五十二節ヲ看ヨ)ノ爲メニ覆ハレ外ニ現レズ

(四十七)前額骨(Frontals)ハ腦函前部ノ天井ヲ成形シ左右二骨ヨリ成ル正中ノ所謂前額縫合(Frontal Suture)ニ因リ相接着シ而シテ後方ニ位スル顛頂骨トハ所謂冠縫合(Coronal Suture)ニ因リ連レリ、各側ノ前額骨ハ眼窩上ニ突出ス、此部ヲ眼窩上突起(Supraorbital process)ト稱ス此レヨリ下垂シテ眼窩壁ノ上部ヲ成セル一部ハ之ヲ單ニ眼

窩突起 (Orbital process) ト云フ

(四十八) 蝴蝶基底骨 (Basisphenoid) ハ頭蓋基底ノ一部ヲ成シ、後方ニ廣キ面ヲ以テ後頭基底骨ニ連接シ、前方ニ狹小シテ鈍端ヲ以テ終レリ、該骨ノ中程ニ一孔ヲ開通ス、其上面即チ頭蓋腔ニ向ヒタル面ハ凹狀ナリ、此凹所ハ土耳其鞍 (Sella Turcica) ト名ツケ松葉腺 (Pituitary body) ノ存在スル位置ナリ、凹所ノ前ナル隆起壁ハ前斜突起ト云ヒ、其後ナル隆起壁ハ後斜突起 (Anterior and Posterior Clinoid process) ト云フ、其中後斜突起ノミハ蝴蝶基底骨ニ屬スルモノナリ

(四十九) 蝴蝶翼骨 (Alisphenoids) ハ左右二個ノ翼狀骨ニシテ蝴蝶基底骨ノ兩側ニ固着シ各々上方及ビ外方ニ擴ガリ且ツ下方ニ(各側ニ於テ)内外二板ヲ突出シ兩板ハ前縁ヲ以テ相密着スルヲ以テ此所ニ下方ニ開キタル溝狀ノ凹ミヲ生ズ、此二板ハ即ハチ蝴蝶骨ノ翼狀突起 (Pterygoid process) ト名ツクルモノニシテ其内板ハ翼狀骨(六十八節ヲ看ヨ)ト關節スルモノナリ

(五十) 蝴蝶裂 (Sphenoidal Fissure) ハ各側ニ於テ蝴蝶翼ト蝴蝶基底トノ間ニ存スル裂間ニシテ第三、第四、及ビ第六腦神經並ニ第五腦神經(三叉神經)ノ第一及ビ第二枝ヲ通出スルモノナリ

(五十一) 前蝴蝶骨 (Presphenoid) ハ側扁ノ小骨ニシテ蝴蝶基底骨ノ前ニ位ス、但シ此二骨ノ中間ニ軟骨ノ挾マルアリ、故ニ乾燥シタル頭骨ニテハ二骨間ニ空間ヲ見ルル前蝴蝶骨ハ視神經孔ノ直下及ビ直前ナル區界ヲナスモノナリ、視神經孔 (Optic Foramen) トハ視神經ヲ通出セシムル孔ニシテ兩眼窩ハ此孔ニヨリ只頭蓋腔ト通ズルノミナラズ亦相互ニ交通セリ、又前蝴蝶骨ハ其後部ヨリシテ上方ニ彼ノ前斜突起(四十八節)ヲ出ダシ、視神經孔ヨリモ前ニ於テハ不規則形ノ左右二板ニ分レ上ハ前額骨ヨリ下垂セル眼窩突起(四十七節)ト連接シ以テ眼窩壁ノ一部ヲ成セリ

(五十二) 眼窩蝴蝶骨 (Orbitosphenoids) ハ前蝴蝶骨ト全ク固着シ其兩側ヨリ左右ニ突出セル翼狀骨ニシテ外方ニ擴

兔ノ解剖案内

第貳卷

六三

日五十月二年三十二治明

兔ノ解剖案内

第貳卷

六四

ガルト同時ニ少シク後方ニ傾ケリ、視神經孔ノ直上及ビ直後ハ即チ此骨ナリトス

(五十三)鱗狀骨(Squamosal)ハ甚ダ不正形ノ骨ニシテ兩側ニ在リ、上ハ顱頂骨及ビ前額骨ト連接シ、前ハ前額骨ノ眼窩突起及ビ眼窩蝴蝶骨ニ接シ、後ハ顱頂骨ノ下行突起ニ接着セリ、其外面ヨリシテハ額骨突起ト名ヅクル強壯ノ突起ヲ出ダス、此物始メ外方ニ向ヒ尋テ下方ニ下リ更ニ前方ニ向フモノニシテ其下面ニ一ノ關節面アリ、此部ヲ關節窩(Glenoidal cavity)ト稱ス即チ下顎ノ關節スル所ナリ、鱗狀骨ハ又其後縁ヨリシテ後方及ビ下方ニ向ヒ圍耳骨(五十六節)ノ外面ニ沿フテ幅狹キ突出ヲ生ズルモノナリ

(五十四)聽骨(Tympanic)ハ聽道ノ骨ニシテ上ナル管狀部及ビ下ナル胞狀部ヨリ成ル、此胞狀部ハ聽胞(Bulla tympani)ト稱シ頭骨ノ下面ニ突出シ且ツ後頭基底骨ノ兩側ニ連接スルモノナリ、内面ニ於テ管狀部ト胞狀部ト相接続スル所ヨリシテ折曲シタル扁平隆起線ヲ生ズ、鼓膜ハ此

隆起線ニ附着スルモノナリ

(五十五)聽骨ヲ側部ヨリ見ルトキハ其管狀部ト胞狀部ノ相接続スル部分ノ後縁ニ小サナル切レ込ミアリ、此切レ込ミハ第七腦神經ヲ通出セシムルモノニシテ其孔ヲ錐狀乳頭孔(Sylo-mastoid foramen)ト云フ、下面後部ニモ亦切レ込ミアリテ圍耳骨ノ密接スルニ因リ管溝ヲナス、是レゆるすたき氏管ヲ通ズルモノナリ

(五十六)圍耳骨(Periotic)ハ甚ダ不規則形ノ骨ニシテ後ハ外後頭骨ニ、上ハ上後頭骨ニ、前ハ顱頂骨ノ下行突起ニ、下ハ後頭基底骨ニ連リ、其外面ハ聽骨ヲ以テ覆ハレ而シテ此二骨ノ間ニ所謂鼓室(Tympanic cavity)ヲ存ス、其外面(聽骨ヲ取除カザレハ見ヘズ)ニ前後二孔ヲ開ク、前ナル者ヲ圓窓(Fenestra rotunda)ト云ヒ、後ナル者ヲ卵圓窓(Fenestra ovalis)ト云フ、又内面ニハ大ナル凹ミヲ具フ、是レ小葉窩(Floccular fossa)ト名ヅクルモノニシテ小腦ノ小葉(Flocculus)ヲ含有スル部分ナリ、該窩ノ下ニ更ニ淺キ凹ミアリ、是レ内耳道(Internal auditory meatus)ニシテ第

動物學雜誌第六號

七及び第八腦神經通過ノ爲メ二孔ヲ穿テリ

(五十七)中裂孔(Foramen lacrum medium)ハ圍耳骨ト蝴蝶翼骨ノ間ニ存スル大ナル空隙ニシテ第五腦神經(三叉神經)ノ第三枝ヲ通過セシムルモノナリ

(五十八)後裂孔(Foramen lacrum posterius)ハ圍耳骨ト外後頭骨ノ間ナル間隙ニシテ第九、第十及び第十一腦神經ヲ通出セシムルモノナリ

(五十九)中篩骨(Mesethmoid)ハ分離シタル又ハ縦斷シタル頭骨ニノミ見ルヲ得、此物篩狀板(Cribriiform plate)及び直立板(Lamina perpendicularis)ノ二部ヨリ成ル、甲ハ頭骨腔ノ前下部ノ壁ヲ完全シ嗅神經通過ノ爲メ篩狀ニ穿孔サレアリ、乙ハ甲ヨリ前方ニ突出シ正中面ニ直立セル板狀骨ナリ、新鮮ノキハ此直立板ハ前方ニ軟骨性ノ鼻中隔(Septum nasi)ト連續シ共ニ鼻腔ヲ左右二室ニ分ツモノナリ

(六十)鼻中隔ノ下縁兩側ニヤコッブ氏軟骨ト名ヅル卷物狀ニ卷キタル軟骨體ノ附着スルアリテ前顎骨ノ口蓋突

起ニヨリ包マル又鼻中隔ノ上縁ハ鼻骨ノ下面ニ沿フテ左

右ニ擴張シ前ハ鼻孔ヲ圍繞スル所ノ鼻翼軟骨(Alinasal cartilage)ト連續ス、以上ノ軟骨部ハ固ヨリ新鮮ノ頭骨ニ非ザレバ見ルヲ能ハザルモノナリ

(六十一)側篩骨或ハ篩甲介骨(Parethmoids, Ethmoturbinals)ハ中篩骨ノ兩側ニ附着セル者ニシテ甚ダ複雑ニ變積シアリ、成體ニ在テハ中篩骨ニ全ク固着セリ

(六十二)鋤骨(Vomer)ハ延長形ノ骨ニシテ上面ニ從溝ヲ具ヘ以テ鼻中隔及び直立板ノ下縁ヲ受シ、成體ニ在テハ側篩骨ト固着セリ

(六十三)鼻骨(Nasals)ハ左右二個ノ扁平大骨ニシテ鼻腔ノ天井ヲ成セリ、各鼻骨ハ下面ニ薄キ囊狀突起ヲ具フ、之ヲ鼻甲介骨(Naso-turbinal)ト名ヅク

(六十四)前顎骨(Premaxillary)ハ吻端ニ於ケル一對ノ不規則形骨ナリ、各鼻骨ノ外縁ニ沿フテ後方ニ細長ノ突起ヲ出ダシ前顎骨ニ達ス、之ヲ鼻突起(Nasal process)ト云フ、其レヨリモ下方ニ當リ同ク後方ニ突出シ顎骨ニ連接

兔ノ解剖案内

第貳卷

六五

ス、之ヲ顎突起(Maxillary process)ト云フ、又其前部内側ヨリシテ後方ニ向ヒ口蓋ニ沿フテ走レル突起アリ、是レ口蓋突起(Palatine process)ト名ヅクルモノナリ、各前顎骨ハ又前端ノ下縁ニ二個ノ齒槽ヲ具フ、是レ即チ切齒ノ生ズル所ナリ

(六十五)顎骨(Maxilla)ハ左右二個ノ大且ツ不規則形ノ骨ニシテ前顎骨ト共ニ上顎ヲ成ス、其表面海綿質ナリ、下縁ニ齧齒ヲ生ズ、口蓋ニ沿フテ内方ニ所謂口蓋突起ヲ出シ以テ左右相連接ス、此左右會合セル口蓋突起ハ即チ骨性口蓋ノ前半ヲ成形スルモノナリ、後部外側ヨリ一大突起ヲ出ダシ折レテ後方ニ向フ、此物幼兔ニ在テハ獨立ノ一骨ニシテ之ヲ顴骨(Zygoma)ト名ヅク、顴骨根本ヨリ稍々前ニ當リ顎側面ニ一孔ヲ開キ眼窩ト通ズ、此孔ハ三叉神經ノ第二枝ヲ通出セシムルモノニシテ之ヲ眼窩下孔(Intra-orbital foramen)ト名ヅク

(六十六)顎甲介骨(Maxillo-turbinals)ハ卷物狀ノ薄骨ニシテ鼻室中前部ニ占位ス

(六十七)口蓋骨(Palatines)ハ左右二個ノ薄板狀骨ニシテ前ハ顎骨ニ、上ハ前蝴蝶骨ノ眼窩突起ニ、後ハ翼狀骨並ニ蝴蝶翼骨ノ翼狀突起ニ連接ス、各口蓋骨ハ其前部ヨリ内方ニ向ヒ突起ヲ出ダシ正中ニ於テ左右相連接ス、此部ハ前ハ顎骨ノ口蓋突起ニ密接シ相共ニ骨性口蓋ヲ完全スルモノナリ

(六十八)翼狀骨(Pterygoid)ハ小形ノ骨ニシテ左右ニ在リ、蝴蝶翼骨ヨリ生ズル翼狀突起ノ内板(四十九節)ノ後縁ニ連接シテ下ハ遊離端ヲ以テ終ル、此遊離端ハ之ヲ鉤狀突起(Hamular process)ト名ヅク

(六十九)涙骨(Lacrimal)ハ兩側ニ在ル小形骨ニシテ眼窩ノ前壁ニ於テ顎骨ト前額骨トノ間ニ在リ、各々孔ヲ穿テリ、是レ涙管ヲ通ズル道ナリトス

(七十)縦斷シタル頭骨ニ就キ腦ヲ收容スル所ノ内腔ノ有様ヲ觀ルベシ、該内腔ヲ總稱シテ頭蓋腔(Cranial fossae)ト云ヒ更ニ數窩ヨリ成ルモノナリ、其最後ニ位スル者ハ小腦ヲ收容スル小腦窩(Cerebellar fossa)ナリ其レヨリモ前

ニ當リ内方ニ突起セル隆起ヲ隔テ、大腦窩 (Cerebral fossa)アリ、嗅窩 (Olfactory fossa)トハ嗅葉ヲ收ムル者ニシテ大腦窩ノ前端部ヲ云フナリ

(七十一)下顎骨 (Mandible)ハ二又形ノ骨ニシテ左右ノ枝 (Rami)ト稱スル部分ヨリ成ル、兩枝ハ前端ニ於テ粗糙面ヲ以テ相連接シ、各枝ハ齒槽ヲ具フル所ノ水平部及ビ後方ノ上行部ヨリ成ル、其上行部ハ鱗狀骨ト關節スル爲メノ髁 (Condyle)ヲ具フ、髁ヨリモ前ニ當リ上方ニ突出スル板狀部分ヲ冠狀突起 (Coronoid process)ト名ツク、下顎ノ後部下縁ニ於ケル角 (Angle)ト名ツクル部分ハ少シク後方ニ突出シ且ツ其内側ニ棚狀隆起ヲ出ダセリ、各枝内面ニ於テ凡ソ水平部ト上平部トノ境界ニ數孔ヲ穿ツ、是レ齒下孔 (Inferior dental foramen)ト名ツクルモノニシテ三又神經第三枝ヲ通ズルモノナリ、(七十二)舌骨 (Hyoid)ハ舌ノ根本、喉頭ノ直前ニ占位スル者ニシテ他ノ諸骨ト連接セズ、故ニ乾燥シタル頭骨ニ在テハ全ク遊離シアルモノナリ、該骨ノ本部ハ之ヲ舌骨體或

ハ舌骨基底 (Basihyal)ト名ツク、此物前後ニ對ノ角狀突起ヲ出ダス、其前ナル一對 (Ceratohyal)ハ至テ小サク而シテ後ナル一對 (Thyrohyal)ハ長クシテ後方ニ向ヘリ (以下次號)

寄書

動物聲音考第三

鷺附鴈

時珍曰鷺鳴自呼江東謂之舒鴈似鴈而舒遲也とあれば支那音鷺といへるの其鳴聲によれる名なるべしもとより鷺の時珍の説の如く高飛し能のざるのみならず其步行遅々たるにより舒鴈と名けたるものか和名抄又兼名苑の注を引き鷺如鴈人家所畜也とありこれにより家鴈の名あり之より反して鴈の其形狀鷺に似たるも鴈の高飛は巧みなる野鳥なり故に鴈の一種に野鷺の名あり

本草集解云く有野鷺大子鴈似人家蒼鷺謂之鷺鷥とあり爾雅云く舒鴈鷺也一日蒼鷺音歌鷺類如